
闘争委員長の決意

中央労働金庫労働組合
闘争委員長 安藤 恒

2013 年度は R・ONE 移行という業態統一の最重要課題に取り組みつつ、経営体質の強化に向けた諸施策を推進し実績を上げてきたことは過年度にない職員の頑張りである。さらにシステム移行は完遂したわけではなく、新システムの導入目的を達成するためにはこれからが本番である。

以上のことから、金庫は 2013 年度の職員の頑張り と 2014 年度の事業運営に対する職員への期待に対して目に見える形で報いるべきである。また、すべての役職員が心身共に健康で働き続けられるよう、職場環境を整備する必要がある。そうすることで、職員一人ひとりが最大限の力を発揮することにつながり、「R・ONE の安定稼動や事業の継続と発展」に寄与するものと労働組合は確信している。「安定雇用・公正処遇」は、人事制度見直し協議で実現をめざすこととするが、2014 春季生活闘争は総合的な生活改善の場と位置づけ、「ワークライフバランスの実現」「すべての職員の賃金と諸労働条件の確保」に向け、全国の仲間と共に最後まで闘い抜くことをお誓いして決意表明とする。